

## 野党統一と市民の共同の力で 首都東京から新たな歴史的情勢を切り開こう！

安倍自公政権は、参院選挙中は、ほとんど触れようとしなかった憲法改正を、3分の2以上の議席を確保したことを受けて一気にすすめようとしています。

年金受給期間を25年から10年に短縮措置を前面に出しながら、年金受給開始年齢の引き上げ、マクロ経済スライド制度の改悪など、年金制度の改悪をはじめ、医療・介護の制度改悪を企図しています。秋の国会は、平和と暮らしを守る本格的たたかいになります。

参院選結果は、改憲勢力が三分の二を確保とはいいいながら、32ある一人区は、11人の野党共同候補が前回の2人を大きく上回り勝利しました。これは戦争する国づくり、大企業優遇を押し進める安倍政治に反対する国民の意思が示されたものと言えます。昨年の戦争法反対運動以来の国民運動の広がり、決して衰えていませんし、「憲法改悪を許すな」の声と運動はますます深く広くなることは明らかです。

年金者組合は、戦中・戦後を生き抜いてきた高齢者の本領を発揮、この参院選でも、全国で奮闘しました。「月間」は終了しましたが、目標に届かなかったからと、自主的にとりくみを継続して奮闘している県本部が少なくありません。「年金引下げ違憲訴訟」は、42都道府県で提訴し、原告4000人を超え、史上まれにみる社会保障をめぐる裁判運動に発展しています。

14日公示で始まった都知事選に鳥越俊太郎さんが「参院選の結果で、国全体が舵を切り始めている。元に戻す力を東京から発信したい」という決意を持って、野党共同候補として立候補されました。都知事選は、多くの市民と野党各党が共同して、平和と暮らしを守り、都政を都民の手に取り戻す歴史的なたたかいであり、野党共闘の前進と勝利の運動を首都東京から全国に発信する新たなたたかいです。参院選直後の願ってもないリベンジのたたかいでもあります。

残された16日間、組織の総力を挙げ、新たな歴史的情勢を切り開くために、すべての組合員が鳥越俊太郎さんの勝利のために、全国からの支援を心からよびかけます。

2016年7月15日

全日本年金者組合  
中央執行委員長 富田浩康